

# R

KANSAI  
UNIVERSITY  
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

# Reed

No. **33**

June, 2013

関西大学ニュースレター  
発行日：2013年(平成25年)6月3日  
発行：関西大学 広報室広報課  
大阪府吹田市山手町3-3-35  
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121  
<http://www.kansai-u.ac.jp/>



# SUGI- MOTO SEIJI

■リーダーズ・ナウ ー5  
在学生— 総合情報学部 堀雅洋研究室  
卒業生— 楽天銀行株式会社 お客さまサポート本部  
品川カスタマーセンター 品川コンタクトセンター  
東 明花 さん

■研究最前線  
教育学・e-ラーニングの研究  
学習者が自ら考えて判断・行動する教育へー7  
教育推進部 一山本 敏幸 教授

知能・感性・意図情報処理システムの研究  
効率的な学習を提供するシステム開発ー9  
システム理工学部 電気電子情報工学科 一 村中 徳明 教授

■トピックス [学内情報] ー11  
凜風館に「コラボレーションコモンズ」がオープン  
「コラボ」で「考動力」を鍛える  
「ウェークアップ! ぶらすLive in 関西大学」を開催  
次世代型蓄電池の未来を論議

人間健康学部が信州大学大学院  
医学系研究科と学術連携協定を締結  
スポーツ医学分野の発展を目指す

■社会貢献・連携事業/地域連携 ー13  
ランナー・ボランティア・観客が一体となって  
大会をつくり上げる特徴が浮き彫りに  
第2回大阪マラソン共同調査研究

関大院生が制作した Petit DIY 住宅  
男山団地でモデルルームとして公開  
未経験からのアプリ製作、雇用も実現  
「すすめ! 大槌プロジェクト」で研修支援

■関大ニュース ー15  
第10回全日本学生落語選手権「策伝大賞」で  
文化会落語大学の今井智子さんが大賞を受賞 ほか

開かれた大学と  
インターネットの今  
教育の質を高めるために、ITをいかに活用するか  
■対談  
杉本 誠司 株式会社ランコ代表取締役社長/関西大学客員教授  
楠見 晴重 学長





# 開かれた大学とインターネットの今

教育の質を高めるために、ITをいかに活用するか

**杉本 誠司** ・株式会社ニワンゴ 代表取締役社長  
関西大学客員教授

**楠見 晴重** ・学長

再生される動画にコメントを付けられる「ニコニコ動画」は登録会員数3300万人以上、1日のページビュー約1億8000万、コメント数は1日約100万に上る。この日本最大級の動画サービスを生み出したニワンゴの杉本誠司社長が明かすインターネットや若者たちの今は、これからの大学教育のあり方に対する示唆に富んでいる。



「ニコニコ動画」のトップページ

## ◆ニコニコ動画は動画サービスではない

**楠見** ニコニコ動画はなかなか面白いシステムですね。書き込みができるというのは素晴らしい。

**杉本** ありがとうございます。今でこそそう言ってもらえる時代になりましたが、サービスを開始した当初は、動画の上に違う要素であるコメントが表示されるのを見て、「これは一体なんなんですか?」と言われることが多かったですね。

**楠見** どのような方が主に利用されているのですか?

**杉本** 登録者は3300万人を越えましたが、利用者像に一貫性がなく、面白いと感じていることもさまざま。その状態が、メディアとして新しい形だと感じています。

**楠見** どのようなところがそんなに多くの方に支持されているのでしょうか?

**杉本** 見た目がユーチューブの画面にコメントが載っているようなものなので、ユーチューブみたいな動画サービスという印象を持たれる方が多いのですが、実は私たちはそう思っていない。もちろん、形態からしたら動画サービスですが、動画コンテンツを1つの軸に、見ている人たちが思っていることをしゃべり合い、同じものを面白いと思える人が集まってコミュニティを作っている、その行為そのものが、サービスのコアだと思っています。

## ◆国語力がニコニコ動画を面白くする

**楠見** 選挙前には政治討論会をやっていましたね。以前ならテレビで討論していた政治家が、活動の場をインターネットにシフトしてきているように思われますが。

**杉本** 政治家の方々は有権者がどこにいるのかということに対する感覚が非常に高い。今はテレビ以上の訴求力をインターネットが持ち始めていると、討論番組に出られる現職議員の方、候補の方が感じられているのかもしれませんが。ライブストリーミングの場合には、同時に数万人がご覧になり、その視聴者からのコメントがライブで表示されます。出演者の方々にはなるべく視聴者からのコメントを見ていただくようにしています。出演者の発言に対して、「そりゃ違うよ」という反論もあれば、肯定する意見もあります。コメントを見ていただいた上で、それに対する説明や再反論をしていただくことで、よりライブ感やリアリティがある有権者との直接対話の場が実現します。これは決してテレビではできない環境だと思います。

**楠見** ニコニコ動画のようなものは海外にもあるのですか?

**杉本** あまりないですね。ニコニコ動画のようなスタイルをまねてもあまりはやる環境を作れないというのが実情のようです。これは少し私の個人的な見解ですが、日本人は国語力が非常に高い。高いゆえに、言葉遊びを楽しんだり、二次的な創作をしたりといった遊びを昔からやってきた民族だと思うんです。ニコニコ動画上のコミュニケーションも、テキストで情報を伝えることを遊びにして楽しんでいることが結構多い。たとえば、楠見先生が出演されて、動画の最後に「皆さん、どうもありがとうございました。」と挨拶されたとします。そうすると、きっと画面上が8の数字で埋まります。これは、「パチパチパチ」の拍手を表していて、スタンディングオベーションのお決まりの表現なんです。こういう流行がニコニコ動画上ではたくさん見て取れます。それがコミュニケーションの中からすべて起こってくるということが見ていて面白いです。



ライブストリーミングで配信された「ネット党首討論会」。視聴者からライブでコメントが表示される

## ◆世界中の大学の講義をネットで学ぶ

**楠見** 大学ではITを使っていかに授業を効果的に行うかといった取り組みを行っています。教育の質を高めるためには一方通行の授業ではなく双方向で行う。インターネットを利用することで、教室だけでなく遠隔地でも授業を受けられるなど、いろ



幕張メッセで開催された「ニコニコ超パーティーII」。観客とネット視聴を合わせ、2日間で111万人を動員



杉本 誠司(すぎもと せいじ)  
1967年東京都生まれ。気象情報会社の株式会社ウェザーニューズなどを経て、2003年株式会社ダウンゴに入社。モバイル向けのビジネスツールや電子書籍サイトなどの新規事業を担当し、メールポータルダウンゴの立ち上げに携わる。2007年12月社長就任。動画サイト「niconico(ニコニコ動画)」の運営指揮にあたる。株式会社ダウンゴ広報部長、株式会社ダウンゴコンテンツ ニュースプラットフォーム部長、株式会社ニコニコ代表取締役社長。

基本的にコンテンツをオープンにしていることで、逆に価値が高まるだろうと考えています。それはエンターテインメントはもちろん、カリキュラムであるとか、学術的な内容になればなおさらではないでしょうか。

いろいろなことがITを使うことでできるようになってきました。文科省も今まではフェイス・トゥ・フェイスの授業でなければ単位を認めないとしてきましたが、だんだんeラーニングなど対面型ではない授業を取り入れた場合でも単位を認める方向へと変わってきています。

また、世界的な潮流としてオープンコースウェア(OCW)など、講義をインターネットを通じて無償で公開する活動が広がっています。マサチューセッツ工科大学から始まったこの活動は、その後世界に広がり、我が国でも多くの大学が取り組んでおり、本学も日本オープンコースウェア・コンソーシアムに加盟しています。OCWでは例えば、アメリカの有名大学の講義をその大学の学生でなくても、世界中、誰でも無料で見ることができます。ただし、教育的な指導は通常受けることができず、単位を取得したいとなると、学費を納め、指導を受け、講義の内容をきちんと習得したかの認定を受けなければなりません。アメリカの大学もアジアの主な大学でもそういう方向に進み、日本もそうなるでしょう。そうならないと、大学はおそらく、世界からそっぽを向かれてしまいます。このような世界の大学の動きに対して、ニコニコ動画のようなサービスにはヒントがあると、お話を伺いながら感じていました。

杉本 私たちの考え方としては、基本的にコンテンツをオープ

ンにしていくことで、逆に価値が高まるだろうと考えています。それはエンターテインメントはもちろん、カリキュラムであるとか、学術的な内容になればなおさらではないでしょうか。これまでの大学教育の考え方としては、コンテンツそのもの、つまり講義自体が課金対象になっていましたが、今のお話では講義から得られる成果物に対して課金をしていくというように、課金対象が変わっていることがポイントだと思いました。

講義を全部あるいは全部でなくても、それが求める人にとって求められている内容なのかどうかわかるレベルまで公開していくことは、その付加価値を欲しいと思っている人の意欲を最大限に引き上げる効果があると思います。これは、多くの大学に積極的にやっていただきたいと思います。そのために、仮に私たちのツールがお役に立てるのであれば、それはぜひ活用していただきたいと思います。

#### ◆IT活用で学修時間の確保

楠見 世界の中で日本の大学生は勉強時間が少ないとか、入学するまでは勉強しますが、入ってからはあまり勉強しないと言われる。学生の学修時間をいかに確保するかも大きな課題だと感じています。学生にはやりたいことがたくさんあります。教室ではもちろんしっかり教えますが、仮に出席できなかったら、例えば、動画配信を利用して代わりにどこでも授業が受けられる、夜中でもいつでも受講できるようにするというやり方も考えられます。そのような工夫によって、学修時間を確保し、教育の質を高めていく。こういうところにもインターネットの活用を考えていかなければならないでしょう。

ITの活用では、eラーニングシステムの導入も進めていきたいと考えています。本学には独自で開発したeラーニングシステムがありまして、これがなかなか評判が良いのです。開発した冬木正彦名誉教授は、平成24年度文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。

#### ◆授業中にツイッターで発言させる

楠見 授業に対して学生がどのように感じているのか、ニコニコ動画のようにリアルタイムでコメントが届くようにしたら授業は変わるかもしれませんね。教える側からしたらしんどいかもしれませんが。

杉本 双方の緊張感が高まるので、授業の質は上がると思います。

楠見 全部の授業でなくても、何回かに1度そのようなことをやるだけでも効果はありそうです。学生からもどんどん発言が出てくるような双方向性の高い授業をやりたくても、学生はなかなか手を挙げません。しかし、インターネットを上手に利用すれば、学生からいろいろなコメントが返ってくるのが期待できます。

杉本 私も何回かインターネットを使っての発言を試したことがあります。「講義の最中でも構わないので、ツイッターを使って書き込んでください」と伝え、そのコメントをみんなが読めるように投影してもらおうのです。感想でも質問でもなんでもい

い、私がピックアップして対応するという流れをつくると、学生は発言しやすくなるようです。

楠見 日本人は手を挙げて堂々と自分の意見を主張する訓練を受けていないんですね。どちらかといえば小学1年生の時が一番手が挙がって、学年が進行して行くにつれてだんだんと挙がらなくなっていく。目立つのが良くないという雰囲気が日本ではあるんです。それが大学生になると極端に手を挙げなくなってくる。

それに対して、海外の授業ではどんどん質問が出てくる。くだらないことでも、気が引けるなんてことはないんです。今、グローバルな人材の養成とよく言われます。グローバルな人材に求められるのは、やはりコミュニケーション力です。ただ単に語学を話せることではなく、人前で堂々と発言できる力を付けるまで、ITの技術を使っていくというのも、グローバルなコミュニケーションを育てていくには役に立つと思います。

杉本 ツイッターを使って発言を促すと面白いのは、社会人を対象にしたシンポジウムでやると、全然発言が出てこないんです。特定の方が少しづつよく程度で、基本的には私の話している内容をリツイートするばかりなんです。学生を対象にしたときは、質問も出てきますし、こう思うという意見も出てきます。そういう意味では学生の方が積極的だし、ピュアだし、自分の情報を持っているという印象があります。

楠見 今の若い人は物心ついた頃から周りにネット環境がありますから、ツールを使うレベルではものすごく高いと思います。ツイッターの使い方にしてもリテラシーが高いのではないのでしょうか。その若い人の持つ感覚に対して昔の授業の流れではなく、変えていかないといけないことがおそらくあるのだと思います。今の人は新聞を読まない、活字媒体を読まないと言われる。しかし、通学の途中でスマホを見たりして、彼らはどこかで情報を得ているのです。

杉本 インターネットのほとんどは実はテキストデータですから、テキストそのものとは触れ合っているのです。

楠見 私の研究室に新聞を置いているのですが、特定の学生しか読みません。しかしながら、結構知識を持っている学生は多い。いろいろな媒体をうまく活用しているのでしょう。総じて40、50代に比べ、今の20代は多様なメディアを活用しているという感じがします。

#### ◆意味の分からないことこそ意味がある

楠見 ところで、ニワンゴの親会社のダウンゴという社名はどのような意味があるのですか？

杉本 今、世の中は、1つ1つのことごとについて、意味を求められます。それは既存の価値観の中で存在意義を求められているわけですが、そこから外れたものは意味の分からないこと、訳の分からないこととされてしまう。しかし、そういうことは逆説的に考えると非常にクリエイティビティに溢れているし、新しい可能性を含んでいると考えることができます。人に理解されない、人に説明しても意味を持たないことに対しては、私たちはすごく意味を感じています。頓知みたいな話ですが、そ



楠見 晴重(くすみ はるしげ)  
1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業、81年同大学大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工部助手。90～91年英国 Imperial College 留学。関西大学専任講師、助教授を経て、02年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年関西大学学長に就任。一般社団法人日本私立大学連盟常務理事、公益財団法人大学基準協会理事、国土交通省道路防災ドクター、土木学会フェロー会員。主な共編著書に「地圏環境情報学 地下を診る最先端技術」「アジア古都物語 京都一千年の水脈」など。

例えば、動画配信を利用して代わりにどこでも授業が受けられる、夜中でもいつでも受講できるようにするというやり方も考えられます。そのような工夫によって、学修時間を確保し、教育の質を高めていく。

して、ダウンゴが設立された当初、検索しても検索結果が出てこない言葉を探した時に、行き当たったのがダウンゴ。諸説あるのですが、これが社名の由来です。

楠見 お話を伺って、国内外に全く無かったものを創り出した独創性を非常に感じました。ニコニコ動画の今後はどうなっていくのでしょうか？

杉本 ニコニコ動画はユーザー一人一人にとって自分が自分であることを認識できる場であり、拠り所にされています。彼らは自分が自分であることの情報を発信しそれを人に認められる、アウトプットの場所があるということに、非常に喜びを感じている。極端な言い方をすればそこに生きる活力を見いだしている。それが、インターネットの中で本当に良いのかは分かりませんが、今後も若い方を中心にそういった場所を求める欲求があるのならば、自分自身の存在を支えるあるいは他人と一緒に支えていく場所として、私たちはニコニコ動画というサービスを作っていく。明日の活力を養っていただける場所として、より多くの人に関わっていただきたいと思っています。

楠見 今後いろいろなことができそうですね  
杉本 はい。しかし、ニコニコ動画は結局サービスなりツールなので、使っていただく方がどうするかがポイント。さまざまな方々に有効活用をしていただきたいと思っています。



■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

## 分かりやすい 情報体系デザインを実践

堺市の情報サイト制作にチームで協力

「堺好きをどんどん作っていききたいと思い、関西大学総合情報学部堀研究室の学生さん方と協働してこのサイトを作成しました」——「堺市シティプロモーション情報サイト」のトップページには、このような堺市からのコメントが掲載されている。同サイトの制作に携わった学生は5人。彼らは総合情報学部の堀雅洋教授の下で学んだウェブ情報システムの技術と知識を応用し、実ユーザーに近い学生の感覚を生かしてサイト構築に貢献した。



さまざまな地域資源をアピールし、地域の知名度や好感度を上げ、地域そのものを全国に売り込む「シティプロモーション」が各地で活発になっている。2012年12月、大阪府堺市の公式サイトのリニューアルに合わせて公開された「堺市シティプロモーション情報サイト」も同市のシティプロモーション活動の1つ。堺の史跡、産業、観光スポット、体験施設など、堺の魅力を紹介したこのサイトの制作に、堀研究室の学部生3人、大学院生2人が協力し、同市の情報発信に貢献した。

堺市から堀教授を通じて、彼らに協力の相談が持ち込まれたのは2012年6月頃。当時の同市には観光情報サイトはあったが、情報の見つけにくさが課題だった。新しく制作するサイトでは、これらの課題を改善した情報を見つけやすいサイトを目指すことで合意して作業は始まった。



堺市の写真▲  
堺市の情報の関連性を「カードソート」で整理する学生たち▶

7月に行われた堺市との合同ワークショップでは、「千利休」「昆布」「刃物」など堺市の魅力を1枚ずつ名刺大のカードに書き出し、そのカードを並べて情報の関連性を整理するカードソートと呼ばれる作業に、堺市職員と学生で意見交換しながら取り組んだ。「堺市が考える分類に対して、観光客などのユーザーと同じ私達の目線での分類をすり合わせて情報を整理しました」と振り返る。



- 総合情報学部 堀雅洋研究室  
梅景 晃平 さん(研究科2年次生)  
北川 悠一 さん(研究科2年次生)  
宗片 大輝 さん(4年次生)  
西 悠之 さん(4年次生)  
沖野 仁美 さん(4年次生)



返るのは、北川悠一さん。この作業を経て、堺の魅力の時系列に、古代・中世・近世・現代の4つの時代に分け、古代・中世の繁栄を象徴する歴史魅力と現在に受け継がれた活力とのつながりが垣間見えるような情報分類の枠組みに整理することが決まった。この決定を受け、サイトの企画デザインを大学院生2人が中心となってまとめると、今度は学部生3人が中心になってサイトのソースコードを作成するコーディング作業に取りかかった。作業期間は約4ヶ月。授業や自分の研究と並行して取り組まなければならない時間的な厳しさを乗り越え、ユーザーの立場から考えた使いやすいサイトができあがった。ページデザインも、堺市の持つ歴史魅力を生かしたデザインにしたいという堺市の意向を踏まえて、学生が作成したものを採用。修正もほとんどなく、学生が作ったサイトがほぼそのままの形で公開されることになった。「昔からサイトのデザインが好きでしたが、趣味とは違う大変さを感じました」(宗片大輝さん)「最新のソフトにも対応できるようプログラミングをしました」(西悠之さん)「アクセシビリティを検証しましたが、規格について知らないことが多く勉強になりました」(沖野仁美さん)と現在4年次生となった学部生は、それぞれが担当した作業を通じて実践的な学習を体験できたと振り返る。堀研究室では、ユーザーにとって分かりやすい情報体系(情報アーキテクチャ)のデザインなどを学んできた。今回のサイト制作は、その学習の成果をしっかりと発揮する機会となった。「自分たちのスキルを、社会に生かすことができると嬉しいと全員が感じています。情報の伝え方だけでなく、対外的な議論の仕方なども学ぶことができました。情報の分かりやすさがこのサイトの一番の売り。多くの方に見ていただいて、堺市のプロモーションに役立てば」とリーダー役の梅景晃平さんは話した。

## ネット専門銀行の 快適利用をサポート

お客さまの立場から問題解決を図る

- 楽天銀行株式会社  
お客さまサポート本部 品川カスタマーセンター  
品川コンタクトセンター  
東 明花 さん 一商学部 2010年卒業

コストが低く、その分、預金金利の高さや手数料の安さなどが魅力のネット専門銀行。利用者は拡大の一途をたどる。中でも、口座開設数が420万を超える楽天銀行は国内最大手だ。お客さまサポート本部所属の東明花さんは、新たな業態であるネット専門銀行をいかに快適に利用していただくかを考えながら、迅速な対応で顧客の問題解決のお手伝いをしている。

国内最大手のネット専門銀行である楽天銀行、そのコンタクトセンターで働く東さんの主な仕事は、顧客からのメールによる問い合わせへの対応だ。

コンタクトセンターに寄せられるメールは1日100～200件。「パスワードを忘れてしまった」「キャッシュカードを紛失した」など、よくある質問には、基本的に専任スタッフが回答し、東さんはフォロー役として、特殊な問い合わせや文意のつかみにくいメールなど、対応が難しいケースについてスタッフにアドバイスをしたり、回答のために関連部門との連絡や確認に駆け回る。また、問い合わせ内容の分類・分析も大事な業務。例えば、増加傾向の問い合わせがあれば、ホームページの「よくあるご質問」に回答を追加して、問題を解決する情報を得られやすくするなどの改善も行う。

「電話や対面と違って、お客さまがどういう気持ちで問い合わせしているのか、その温度感がメールではつかみにくい。お客さまが本当は何を一番伝えたいのかをくみ取って、分かりやすい回答をできるだけ早く返すように心

東 明花—あずま はるか  
■1987(昭和62)年、兵庫県生まれ。2010年関西大学商学部商学科卒業。高度な統計数理、データマイニングに関する知識と社会科学の素養を培い、ビジネスプロセスを科学的かつ実践的に解明できる人材を育成する「DSIプログラム」を履修した。



掛けています。いかに気持ちよく当行をご利用していただけるかをいつも考えています」と話す。

楽天銀行はネット専門銀行という歴史の浅い業態である上に、新しいサービスも次々と取り入れているため、問い合わせ内容とそれに対する対応も前例が無いことが多い。新しいサービスやキャンペーンを実施する前には、どんな問い合わせがあり、それに対してどのような回答をするのかを綿密に想定し、関連部門と協議しながらテンプレートとなるメール文の作成も行う。東さんの業務は銀行のサービス、インターネット、顧客心理についてなど幅広い知識が求められるのだ。

在学中は商学部の矢田勝俊教授のゼミで、膨大なデータから有用な知識を得るデータマイニングのビジネスへの応用を学んだ。3年次にはある地方スーパーの購買履歴データを統計分析し、ウインナーの最適な割引価格と販売個数を予測し、効果的な販売方法の提案を行う実践的な研究を発表した。

「夏休みも朝から晩まで研究室にこもって地道にデータ分析を重ねました。『データの読解が甘い』と矢田先生に指摘されて、また分析。一番学んだことは1つのことに集中して取り組む粘り強さですね。それは、現在の職場でも役立っています」

楽天銀行は口座残高と利用回数に応じて特典を与える「ハッピープログラム」などの取り組みを行っており、従来の銀行とはひと味違う小売業的なマーケティングを取り入れていると感じて配属を希望した。

「大学の勉強を生かしたいし、新しいことも勉強したい。それには、銀行はいい仕事かなと思いました。面白そうだと思うと何でもやってみたくなるんです」と笑う東さん。在学中は、アジア映画への関心をきっかけに台湾に半年間、語学留学もした。

「学生時代は興味あることはおっくうがらず何でもチャレンジした方がいいと思います。私は関大でいっぱい刺激を受けました。今後は、人に喜んでもらえることを考え、行動していきたいです」



研究最前線

教育学・e-ラーニングの研究

# 学習者が自ら考えて判断・行動する教育へ

アクティブラーニングの導入とe-ポートフォリオの開発

◎教育推進部

山本 敏幸 教授

リーダーシップや交渉力、課題解決力など、社会人基礎力の重要性が改めて指摘されている。こうした社会ニーズに応えるためには、教員が一方的に知識を伝える従来の教育ではなく、学習者が主体となって学習を行う教育へのパラダイムシフトが必要だ。山本敏幸教授は、アクティブラーニングなどの学習スタイルを取り入れた全学共通科目の授業、ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)を活用した授業の進め方の開発・普及、e-ポートフォリオの導入に向けた研究などを進め、これからの高等教育の在り方を提示する実践的な取り組みを行っている。



iPadを使った授業風景

■学生が機長、教師は副操縦士

—まず、先生の所属する教育推進部について教えてください。2008年に本学の教学体制の再編が行われた際に、教育を更に充実・発展させていくために教育推進部が設置されました。教育推進部は全学共通教育の推進に責任を持つとともに、これからの教育について新しい戦略を考えたり、諸問題の全学的な調整を担当します。また、授業支援や教育開発を行うことで、学部や大学院の専門教育をサポートしています。

—先生はどんな教育を取り入れる試みをしていますか？

私は2002年まで20年間アメリカの高等教育に関わってきました。アメリカで広まっていたのが、学習者主体の学習、アクティブラーニング(能動的な学習)といわれるものを中心とした教育でした。これを、我が国の教育にも根付かせたい。教員から知識をあてがわれるだけではなく、学ぶ者が主体性を持って、ディスカッションしながら知識や情報を共有して学びを進めていくという考えです。私が担当する全学共通科目の「スタディスキルゼミ」などの授業で、このような教育を実践しています。

—昔から勉強は学生自身がするものだったのでは？

学生が自分で目標を立て、目標に向けて自分で進むという学習はできていなかったと思います。

飛行機に例えると、従来の教育は先生が折った紙飛行機に学生が乗ったようなもので、学生はどこに向かってどう飛ぶかも決められず、先生がうまく飛ばせばゴールに到達するし、うまくいかなければどこに飛んでいくか分からない。対して、学習



者主体の教育では学生が機長で、先生は副操縦士として隣に座って飛行を微調整するだけ。学生が自分で決めた目的地に向かって自分で操縦して飛んでいきます。つまり、先生ではなく学習者が、自身の学習を管理します。

—自分で課題を見つけて自由にやりなさいと言われて、学生はうまくできますか？

受験勉強しかしてこなかった学生や、先生に言われたことしかしてこなかった学生がいきなりやるのはやはり無理です。そこで、私が担当する全学共通科目の授業では、ラーニング・アシスタント(LA)を取り入れています。LAは同じ科目の履修経験がある学生がお兄さんお姉さん役として、担当教員と受講生の間をつなぐような立場に入って授業を進めます。全学共通科目の履修生は主に新入生ですが、だいたい4・5週目ぐらいになると、クラスの文化に慣れてきます。

▼LA研修の様子

▼授業をサポートするLA

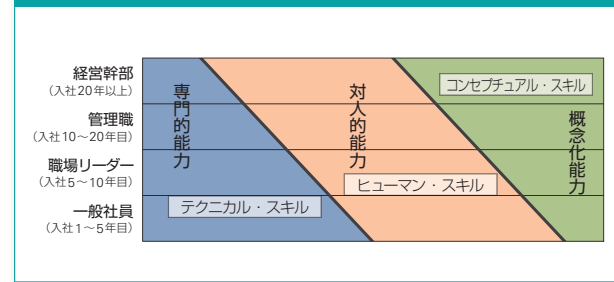


■全学共通科目で社会人基礎力を育てる

—学習者主体の学習は、大学生の初めに全学共通科目で体験する方が良いのですか？

大学の4年間は専門知識を身に付ければ良いという考え方が

図1 ロバートカットモデル



あります。しかし、いくら最先端の知識・技術を身に付けても、最先端の研究分野は3年程度で賞味期限が切れてしまうと言われています。大学を卒業後、職業人としての約40年何を燃料にして生きていくのかと考えた場合、必要になってくるのは社会人基礎力だと思います。

社会人基礎力はどんな能力か。ハーバード大学のロバート・L・カット教授は、マネージャーに求められる能力をテクニカル、ヒューマン、コンセプチュアルの3つのスキルに分類しました(図1)。テクニカル・スキルは業務を遂行する上で必要な専門知識や処理能力。ヒューマン・スキルはリーダーシップや交渉力、調整力、プレゼンテーション力など。コンセプチュアル・スキルは論理思考力、問題解決力など。この中のヒューマン・スキルやコンセプチュアル・スキルが社会人基礎力にあたります。

カット教授は社会に出て、組織の中で管理職、経営者へと職位が上がっていくと、求められる能力の中でヒューマン・スキルやコンセプチュアル・スキルの割合がどんどん大きくなっていくと分析しました。ところが3つのスキルとも20代後半でピークに近づき、その後はあまり伸びません。だから、社会人基礎力は大学の4年間で伸ばすしかない。それも、専門研究に入る前の1・2年次の一般教養と言われる全学共通科目が大きな役割を担っていると私は思います。この時期に学習者主体の学習方法やアクティブラーニング、また、チームで課題解決に取り組む学び方を身に付けることが、その後の大きな力になります。

■e-ポートフォリオを活用した教育の可能性

—学生が学習者主体の学習を継続していくためには、授業のやり方を変える以外にも工夫が必要では？

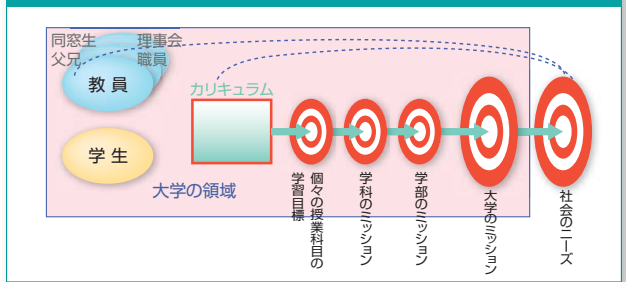
一番大切なのは、学習者自身が自分の学びに対して責任を持つこと。つまり自分で目標を立て、その目標に向かってどのように進むかを自分で決めて実行することです。そのためには、学習の過程を文字で記録し、学んだことと学びきれなかったことを可視化しながら振り返りを繰り返し、自己の成長を確認する。そういう作業が欠かせないものになってくると思います。しかも、これは1人でやれば良いのではなく、コミュニティを作って共有できる仕組みでやっていかなければいけない。それを教育という枠組みの中で実践するには、e-ポートフォリオが適していると思っています。

—e-ポートフォリオとは？

学生用のe-ポートフォリオは、学生のプロフィール、学習成果などを電子化して保存・整理し、共有することができるデータベースシステムで、学生の学びの過程を一元管理し学習の進捗プロセスを追跡できる機能を持っています。

e-ポートフォリオを導入するためには、カリキュラムがきちんと設計されていることが重要になってきます。大学はミッショ

図2 e-ポートフォリオシステムの研究・開発において、避けて通れない領域



ンを示し、なぜこの社会に存在し、どういう人材を育成しているのかを明確にします。示されたミッションと学年・学部の学習目標から各カリキュラムまで一貫性があり、すべてが1つの軸でつながっていなければ、e-ポートフォリオはうまく動きません(図2)。

現在、学内で使えるe-ポートフォリオのパイロット版を、教員や学生で検証しながら準備をしていて、今年度中にプロトタイプを実現できればと思っています。

—ICT活用授業の普及活動もされていますね。

ICTを活用した授業支援システムの開発と同時に、教職員への研修なども行っています。現在検証している授業支援ツールの一例として「Clica(クリカ)」があります(図3)。「Clica」は、スマートフォンを使って、講義中にアンケートや学習者のコメントをリアルタイムで集計できるシステム。「Clica」を導入することで、教員と受講生双方向のコミュニケーションと、授業内・外において受講生相互間のコミュニケーションを同時に取ることができ、それが「Clica」最大の特徴です。

このようなICT機器や授業支援ツールを効果的に活用してもらうための研修の一環として、教職員を対象としたランチョンセミナーも行っています。お昼に弁当を食べながら、気楽にディスカッションをするスタイルにしています。

図3 授業支援ツール「Clica(クリカ)」



—今後の抱負をお聞かせください。

関西大学は「考動力」あふれる人材の育成をビジョンとして掲げています。自分の頭で「考」え、自律的に行「動」することは、まさにアクティブラーニングの考え方と同じです。学生には、社会人になっても困らない「考動力」を身に付け、実践で100%生かしてもらいたいのです。本当の意味で「面倒見の良い大学」とは、こういった「考動力」を備えた人材を誇りをもって社会に送り出すことができる大学だと思います。単なる自己満足ではなく、日本の社会を良くするため、教育的支援の面で本学が日本一の「面倒見の良い大学」となることを目指したいと思っています。



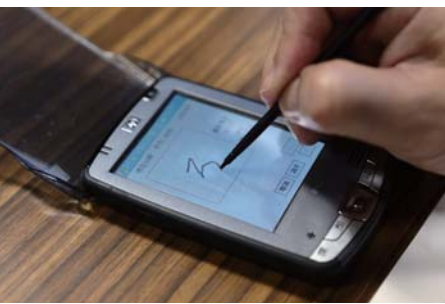
知能・感性・意志情報処理システムの研究

# 効率的な学習を提供するシステム開発

ペン習字学習支援システムの構築

◎システム理工学部 電気電子情報工学科  
村中 徳明 教授

パソコンの普及とともに、文字を書く機会は減少してきたが、履歴書などの大切な書類や手紙は、相変わらず手書きが好まれている。きれいな字を書きたいと思っている人は多く、ペン習字学習の人気は常に高い。村中徳明教授が開発したのは、いつでもどこでも手軽に練習を重ねられるペン習字学習支援システム。講師がいなくても、書いた字に対してその場で評価・添削を受けられ、効率よく上達できる、いわばバーチャル教師による学習を提供するシステムだ。その開発の背景にあったのは、コンピューター・デジタル電子回路と人間に対する村中教授の変わらぬ関心と長年の研究だった。



講師がいなくても、書いた字に対してその場で評価・添削を受けられ、効率よく上達できる、いわばバーチャル教師による学習を提供するシステムだ。その開発の背景にあったのは、コンピューター・デジタル電子回路と人間に対する村中教授の変わらぬ関心と長年の研究だった。

## ペン習字をPDAで書く過程も自動評価

ペン習字学習支援システムを開発されているそうですね。通信教育の中でもペン習字は常に上位に入る人気講座になっています。ただ、通信教育では手本を見ながら書いた清書を送って添削してもらい、返送されたものを見て直すというのが一般的な学習の流れで、添削結果を知るまでの一連のサイクルに時間がかかります。また、印刷された手本は静止画であり、書く過程が全く分からないなどの不便もあります。私たちが開発したシステムは、動画再生機能、トレース機能、字形評価機能、アドバイス提示機能を備えたもので、これをタッチパネルのPDA(携帯情報端末)に搭載して、いつでもどこでも手軽に効果的な学習が可能になりました。



PDA(携帯情報端末)本体 PDA英語版



▲「ペン習字学習支援システム」のアドバイス画面

(右写真・上)学習画面 (右写真・下)評価結果画面

——具体的にどのように使って学習するのですか？  
手本文字はペン習字講師の方に書いていただきました。この手本文字をデータベース化し、学習者の字形評価を行います。学習者はこの手本をまねて練習します。動画再生機能で手本の字が書かれる過程を見て、参考にすることもできます。学習はまずトレース機能を使って、スタイラスペンで手本をなぞって練習します。なぞった字の評価・添削はすぐに出来ます。手本とどれだけ近い字が書けたか、バランス、ペンの運びの緩急などの項目で評価が出され、100点満点で点数が付けられ、良かった箇所、悪かった箇所についてのアドバイスも表示されます。手本と学習者の書いた字を同時に動画再生し、比較して違いを確認することもできます。点数評価で80点以上を取ると星が1つ獲得でき、星が3つで今度はトレース用の文字を使わずに書く清書の段階に進みます。うまく書ければ合格となりますが、うまく書けなければ星が減り、無くなればまたトレースからやり直します。——従来の学習法と特にどこが違うのですか？  
従来の学習法では評価できなかった緩急や速度の評価を取り入れていることが、このシステムの大きな特徴です。字をきれ



の1と0の2進法の論理回路に変わって、多値を導入することでより多くの情報を扱えるようにする研究をしていたのです。しかし、コンピューターの高性能化だけでなく、直接、多くの人に役立つシステムを作りたいと思いアプリケーションの研究にも力を入れるようになりました。

最初はVRを用いて、ピアノの先生に教えてもらわなくても上手に弾けるようになるためのピアノ学習支援システムを考えました。次に毛筆を使う書道学習支援システムの開発に取り組みました。筆の先に圧力センサーを付けて、はね・とめ・はらいを体得する学習システムを考えました。それから今度は、より習い事としての人気が高いペン習字へと研究を進めたわけです。パソコンやスマートフォンは身近なものになってきています。それが学習に利用でき、効果もあるのなら、どんどん利用することを考えればいいと思っています。ペン習字学習支援システムは多くの方に試していただいています。『いつどこで買えるようになるんですか?』と尋ねられたときはうれしかったですね。役に立っているという実感と研究の楽しさを感じました。

## コンピューターと人間をつなぐ“間”に着目

——研究者として関心をお持ちのこと、今後の抱負などを教えてください。

コンピューターは人間を模造したもので、目や耳は情報を取り込む働きで入力装置に相当し、脳は情報を記憶して処理する働きでメモリ、CPUなどの記憶、演算、制御装置に、口、手足は情報を表現する働きで出力装置に相当します。今やコンピューターは人間の代わりに果たし、計算などは人間よりはるかに優れた働きをするようになりました。しかし、コンピューターで感情や感性を扱うことは今でもできません。もし、コンピューターの高性能化を進めていけば、人間をもっと調べて、感情や感性などの脳の働きも解明していかなければならないでしょう。逆の見方をするとコンピューターが人間にどんどん近づいても、最終的に欠けているのが感情や感性であり、そこが人間の最大の魅力でもあります。コンピューターの進化の鍵であり、人間の魅力でもある感情や感性が脳のどんな働きで生まれるのかに興味を感じています。

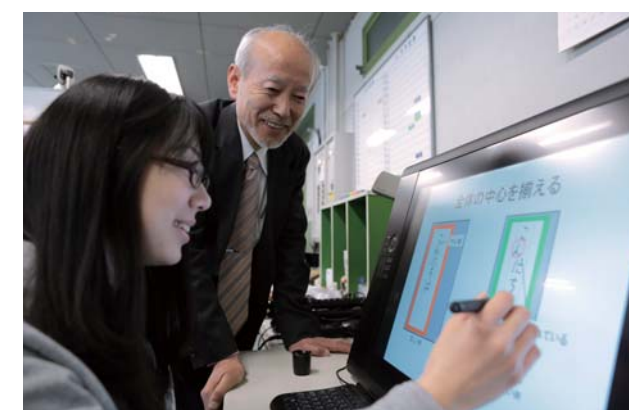
——脳とコンピューターの両側からアプローチして、両方にまたがる分野を研究しているということですか？

そうですね。現在の私の専門が何かといえば、ヒューマンインターフェースということになると思います。要するに人間と機械をつなぐ“間”のところなんです。先に1と0だけではない多値理論の話をしました。西洋的なもの見方はYESとNOですが、東洋ではそこに曖昧模範という“間”があります。晴れと雨があれば、その間に曇りがあるような、どちらになるかわからないようなこと。私はその部分を大事にしたいと思っています。

いに書く人は、速く書く個所と遅く書く個所で緩急のメリハリを付けています。また、極端に速いまたは遅い書き方は文字の流れを損ないます。このシステムでは学習者が緩急や速度を意識することができ、効率的な学習につながると考えています。

また、普通の手本では分からない、気脈というペンの浮いているときのペンの動きも表示することができます。これは特許も取得した技術で、今まで気脈は筆跡が残らないため軽視されていましたが、ここにもペン習字上達のポイントが隠されていると思っています。

——ゲーム性もあって楽しく学べますね。  
星を集めるといったゲーム性のある仕掛けは、すぐ飽きることがないようにあとで付け加えました。学習者の書いた字へのアドバイスの仕方も工夫しました。一度にたくさんのダメ出しをされると、学習者は嫌気が差して放り出しかねないので、1回のアドバイスは3つまでにしています。学習者へのアドバイスは、社会学・心理学的な視点も必要です。



## VRを用いてピアノ、書道学習システムも

——そもそもどうして学習支援システムの開発に取り組もうと思われたのですか？

パソコンの著しい性能向上と低価格化で、バーチャルリアリティ(VR)も日常的なものになってきました。この技術の発展を学習に使えないかと思い、この研究を始めました。私は元々、多値理論の研究をやっていました。多値理論とは命題論理やブール代数のように真値として真と偽の2値だけでなく、多数の値をとるものとして考える論理で、現在のコンピューター



凜風館に「コラボレーションコモンズ」がオープン

## “コラボ”で「考動力」を鍛える 7つのエリアで課外活動や授業外学習を支援

関西大学千里山キャンパスの総合学生会館メディアパーク凜風館1階に、授業外の学習を支援する場として、「コラボレーションコモンズ」が4月1日オープンし、学生たちでにぎわっている。

この施設は文部科学省の私立大学教育研究活性化設備整備事業に、凜風館1階の学生ラウンジをコラボレーションコモンズとして開設する案が採択されたもの。これまでに同事業で採択された教育GPやボランティアセンターなど、関西大学独自の取り組みを集結させ、学生たちの活発なコラボレーションを誘発し、学生の「考動力」の育成を目指している。コラボレーショ

ンの目的や特色に応じて、多目的スペースのコラボレーションエリアと、6つの専門エリアを設けた。

学生、学生スタッフ、教員、職員など、さまざまな立場の関大人が関わるため、多目的なコラボレーションの生成が想定される。刺激的なコラボ環境を得て、関大生がどのような成長をみせるのか、期待が高まる。



### コラボレーションエリア

多目的スペース。くつろぎながら新聞や雑誌を読めるコラボレーションラウンジ、ゼミや課外活動の発表を行えるKUステージなどを配置。コモンズの全域には無線LANを構築しており、各エリアの利用案内、PC・iPad貸出などを担うKUコンシェルジュが常駐して、ICTを活用した学習をサポートする。

### 専門エリア

● **ライティングエリア**……TA(ティーチングアシスタント)によるレポートやゼミ・留学の志望理由書などのライティング支援を実施。文章作成スキル向上を多面的に支援する。

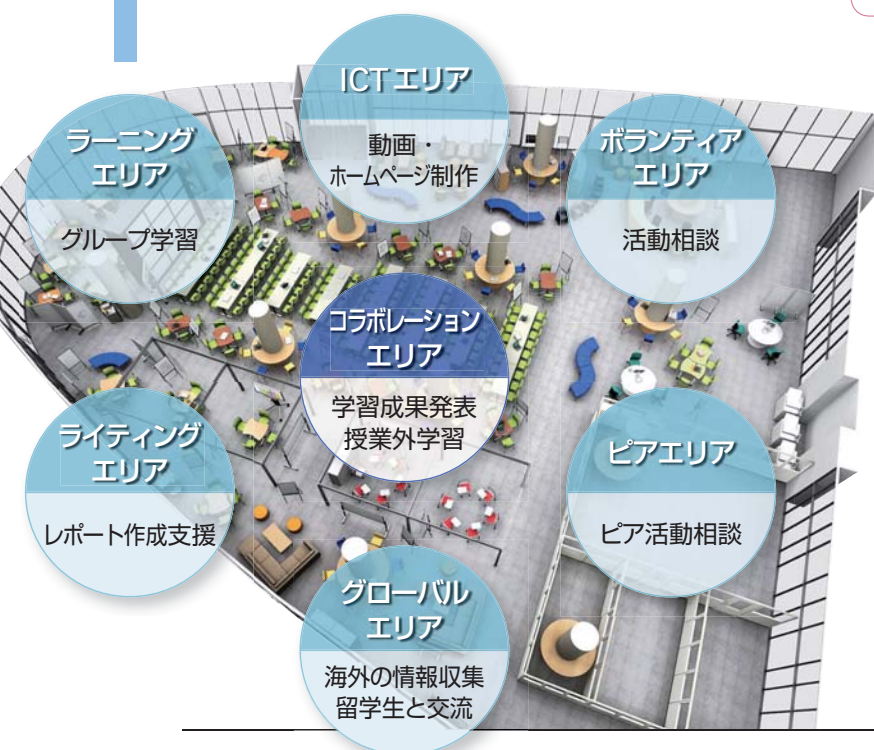
● **グローバルエリア**……留学チューターが留学に関する質問・相談に学生目線で答える。留学生による会話交流会、外国語学習ワンポイント講座、留学情報の提供、留学生向け生活支援などを実施。

● **ボランティアエリア**……ボランティア活動全般の情報交換窓口。ボランティアに関心のある学生同士の交流を促進する。

● **ピアエリア**……学生が学生を支援するピア・コミュニティの活動拠点。ピア・サポート活動を盛り上げるミーティングや各種企画を展開している。

● **ICTエリア**……ハイスペックのパソコンを常備。ゼミや研究室、課外活動のための動画の編集、冊子の制作をはじめ、マルチメディアを駆使したプレゼンテーション資料の作成が行える。また、スマートフォンの活用術講座などが受講できる。

● **ラーニングエリア**……プロジェクター、モニター、ホワイトボードなどを配置。ゼミでの学習、サークルや課外活動の勉強会、研修など、グループワークを実施しやすい環境を整えている。



### ◎ 公開シンポジウム

## 「ウェークアップ! ぷらす Live in 関西大学」を開催 次世代型蓄電池の未来を論議



石川 正司 化学生命工学部教授 カルロス・ゴーン 日産自動車社長兼最高経営責任者(CEO) 猪瀬 直樹 東京都知事



パネルディスカッションに熱心に聞き入る約1000人の参加者

読売テレビの報道番組「ウェークアップ! ぷらす」の公開シンポジウム「ウェークアップ! ぷらす Live in 関西大学」(主催・読売テレビ、読売新聞大阪本社、協賛・関西大学)が3月23日、関西大学千里山キャンパスで、「未来! POWER 蓄電が日本を救う!」をテーマに開かれた。

番組でおなじみの辛坊治郎メインキャスターと虎谷温子アナウンサーが総合司会を担当。本学の石川正司化学生命工学部教授が基調講演を行い、「安全性が高く、数分で高速充電できる大容量の蓄電素材を開発した。材料レベルの開発から蓄電技術で世界をリードしたい」と意欲を示した。続いて、茂木敏充経済産業大臣が、スマート社会実現に対する国の戦略と課題を基調報告。さらにカルロス・ゴーン日産自動車社長兼最高経営責任者(CEO)が特別講演し、関大生からの質問にも丁寧に答える形で、電気自動車もたらす持続可能な社会についての持論を展開した。



カルロス・ゴーン氏とリーダー像について意見交換を行った本学の学生たち

講演終了後は、猪瀬直樹東京都知事、タレントの八田亜矢子さん、岩田公雄読売テレビ報道局特別解説委員に、石川教授が加わり、「蓄電池の可能性とクリーンな生活」と題したパネルディスカッションが行われ、エネルギーの効率利用とそれによって起こる社会の変化に対する関心の高さから、約1000人の参加者からは質問が相次いでいた。

## 人間健康学部が信州大学大学院 医学系研究科と学術連携協定を締結

### スポーツ医科学分野の発展を目指す

関西大学人間健康学部と信州大学大学院医学系研究科は、スポーツ医科学分野で「高齢者の健康長寿のための個別運動処方」の西日本エリアでの展開を目指して学術連携することで合意し、3月25日、信州大学松本キャンパスで締結調印と記者会見を行った。

(左から)  
関西大学人間健康学部  
小田 伸午 副学部長、  
信州大学大学院医学系  
研究科 福嶋 義光 科長



信州大学大学院医学系研究科では、速歩きとゆっくり歩きを交互に繰り返す「インターバル速歩」を考案し、生活習慣病予防や健康増進を図る運動プログラム「熟年体育大学」事業を長野県内外の30あまりの自治体や大学で展開している。

関西大学は2010年、人間健康学部を新設し、スポーツ医科学の幅広い分野で活躍する人材育成に取り組んできた。今回の連携で、同学部のある堺市における地域貢献事業として「インターバル速歩」教室を導入し、同学部がこれまで蓄積してきた知的リソースと融合・発展させることで、新しい中高年のための健康増進プログラムを共同開発し、両大学が連携して西日本エリアでの展開を進めていく。



## ランナー・ボランティア・観客が一体となって大会をつくり上げる特徴が浮き彫りに

◎ 第2回大阪マラソン共同調査研究 第1回に続き杉本厚夫・人間健康学部教授らが実施



人間健康学部  
杉本 厚夫 教授

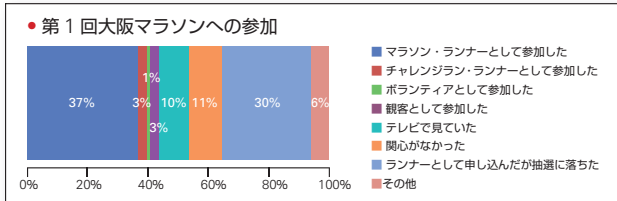
第2回大阪マラソンが2012年11月25日に開催され、3万458人(車いす、8.8kmのチャレンジランを含む)のランナーが参加、約9000人もボランティアが活動に携わり、沿道に詰め掛けた観客は118万8000人に上った。「なぜ、これほど盛り上がるのだろうか?」。関西大学では大阪マラソン組織委員会の依頼を受け、人間健康学部の杉本厚夫教授を中心に、読売新聞と共同で参加ランナー、ボランティア、観客にアンケート調査を実施した。

第1回に続き行われた今回の調査によって、回を重ねるに従ってどのような変化があったのかが分かるデータが蓄積され、よりよい大会運営のために役立つデータを提供できるものと考えられる。ここでは3月発表の最終報告を基に分析概要を報告する。

**ランナー** 参加ランナーの内訳では、第1回にも参加したリピーターが最多で37%。前回、ランナーとして申し込んだが落選して走れなかった人も30%いた。また、観客として参加した人が3%、ボランティアとして参加した人が1%おり、第1回に関わったことで自身もランナーとして走ってみたいとなったと考えられる。

参加理由としては「挑戦したいから」(92%)、「普段は走れないところを走れるから」(88%)、「大阪の観光地を走れるから」(80%)などが多い。

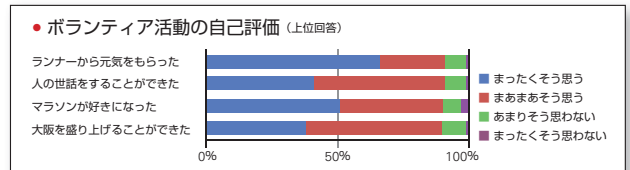
大会後の評価は「一般の観客の応援が励みになった」(99%)「ボランティア等のサポート体制が充実していた」(98%)と回答したランナーが、第1回同様に非常に多い。このデータからも大阪マラソンはランナー、観客、ボランティアが一体となってつくり上げる大会であることがうかがわれる。



**ボランティア** ボランティアの参加動機で最も多かったのは「地域や社会のために役に立ちたい」で87%。「人から勧められたり、誘われたりしたから」という理由が51%で前回の32%から大きく増えた。

第1回には「ボランティアとして参加した」リピーターが34%で最多だったが、次いで多かったのが「観客として参加した」人で25%。昨年から一歩進んで主催者側としてランナーを支えるボランティアを選んだといえる。また前回は「ランナーとして参加

した」人も6%あった。大会後の感想では「ランナーから元気をもらった」と回答した人が91%で最も多かった。



**観客** 第1回でも「観客」として参加した人が38%おり、リピーター率は高い。また、前回は「テレビで見ていた」人が28%で、大阪マラソンへの興味が高まり、実際に足を運んで応援する人が増えたといえる。観戦理由で最も多かったのは「応援を楽しみたいから」(84%)。「ランナーから元気をもらいたいから」という理由を上げる人もボランティアと同じように多く、76%であった。

**調査概要**

- 参加ランナー調査
  - 【方法】 Web調査
  - 【時期】 大会前調査 2012年9月14日～10月15日
  - 大会後調査 2012年11月26日～12月10日
  - 【サンプル数】 大会前調査 4917(第1回調査4811)人
  - 大会後調査 7894(第1回調査7006)人
- ボランティア調査
  - 【方法】 大会前調査 集合調査法
  - 大会後調査 ファックスとWeb調査
  - 【時期】 大会前調査 2012年9月29日、10月6日、20日、21日、11月3日、4日、10日、11日
  - 大会後調査 2012年11月25日～12月10日
  - 【サンプル数】 事前調査 897(第1回調査1045)人
  - 事後調査 352(第1回調査1084)人
- 観客調査
  - 【方法】 面接調査法
  - 【時期】 2012年11月25日
  - 【サンプル数】 415(第1回調査467)人

## 関大院生が制作したPetit DIY住宅 男山団地でモデルルームとして公開

京都府八幡市の男山団地で、関西大学・団地再編プロジェクトの大学院生が壁の塗り替えなどを行った住宅が「Petit DIY住宅」のモデルルームとして公開された。

「Petit DIY住宅」はUR(都市再生機構)が提供する新しいコンセプトの賃貸物件。一般に賃貸住宅の壁紙を変えたり、作りつけの棚を設置するなどした場合、退去時には元に戻さなければならない。ところが、URでは各地に所有する老朽化した団地の一部を、原状回復義務を免除し大幅な改修が可能な「DIY住宅」、少しだけの改修なら可能な「Petit DIY住宅」として供給し始めたのだ。

関西大学先端科学技術推進機構地域再生センターが進める団地再編プロジェクト「集合住宅「団地」の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」は、地域再生センター長である江川直樹環境都市工学部教授が代表研究者を務め、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された。今回のモデルルームづくりも同プロジェクトの一環として行われた。

プロの職人に学び、壁を鮮やかな赤や青に大胆に塗り替えた関大プロデュースのモデルルームは、劇的な空間の変化を実現しており、部屋を自分らしく演出したい入居希望者のよい参考になっている。

関西大学・団地再編プロジェクトによる  
京都府八幡市の男山団地「Petit DIY住宅」



## 未経験からのアプリ製作、雇用も実現 「すすめ！大槌プロジェクト」で研修支援



◀ 電子書籍「インディアンの森」  
▼ 関西大学と支援企業による  
人材育成と企業支援の研修風景



関西大学は東日本大震災の被災地、岩手県大槌町と連携し人材育成と起業支援などを目的とした「すすめ！大槌プロジェクト」(正式名称：Sledge Hammer Inspiration Project 略称SHIP)を展開している。このプロジェクトの中で、関西大学と支援企業による研修を受けた研修生3名が製作した電子書籍「イ

ンディアンの森」が、一般社団法人KAI OTSUCHIから2013年1月にリリースされた。

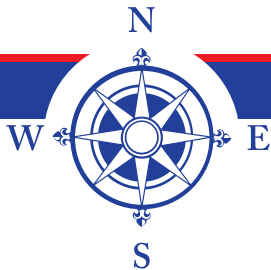
SHIPは2011年度の関西大学「東日本大震災からの復興に関する研究」助成を受けた実践研究としてスタート。2012年7月には本学と大槌町の間で連携協定が締結され、同年8月から在阪のIT企業2社の無償協力でアプリ製作を主としたIT関連技術研修を開始した。研修生はいずれもアプリ製作は未経験だったが、4カ月間の研修で技術を習得し、森田誠二氏の絵本『インディアンの森』をiPad等に向けたアプリとして電子書籍化した。また、研修生から2名の常勤職、4名の非常勤職がそれぞれKAI OTSUCHIに就職することになり、5月7日に本格始業した。

『インディアンの森』は現在、AppStoreで無料配信中。SHIPでは今後、地域の人材によるIT企業の起業から、自律的な運営までをサポートすることを計画している。



# KANDAI NEWS

■ 関大ニュース



## 第10回全日本学生落語選手権「策伝大賞」で文化会落語大学の今井智子さんが大賞を受賞

2月23日・24日に岐阜県長良川国際会議場で開催された、第10回全日本学生落語選手権「策伝大賞」で、全国55大学・大学院から出場した学生落語家280人の中から、関西大学文化会落語大学の今井智子さん(社4)が、大賞を受賞した。女性の大賞受賞は大会史上初の快挙で、関西大学からの大賞受賞者は通算で4人目となった。



▲大賞受賞の今井智子さん

今井さんは「花の家なごみ」の高座名で、上方落語の「堪忍袋」を熱演。冒頭の夫婦げんかの場面から迫力満点に演じ、千人あまりの観客を魅了した。今井さんが初めて落語を聞いたのは大学1年次生の時。極度のあがり症だったが、高座にあがるうちに改善し、日本の座を獲得した。受賞の喜びをかみしめながら、「後輩の女子部員が後に続いてくれたらうれしいです」と語った。

## 道頓堀商店会との連携協力事業を開催

関西大学と大阪・道頓堀商店会は、教育・文化・街の活性化などの分野で双方の発展と充実にご寄与し、積極的に連携することを目的に、「連携協力に関する協定書」を締結。1月16日、千里山キャンパスの100周年記念会館において、今井徹道頓堀商店会会長、楠見晴重学長が出席し調印式を行った。

調印式に引き続き、CGによる町並み復元映像「道頓堀五座の風景」を上映。第2弾として予定されているCG「道頓堀芝居小屋の復元」の基礎となる「大阪の劇場大工中村儀右衛門資料」の一部もメディアに公開した。この資料は2012年に、関西大学大阪都市遺産研究センターが入手した。

1月29日には連携協力事業の一環として、大阪都市遺産研究センターと道頓堀商店会の共催で道頓堀連続フォーラム第1回「芝居町道頓堀の景観復元をめざして」を開催した。



Copyright © 2011 Research Center for Cityscape and Contemporary Architecture, Kansai University

▲CG「道頓堀五座の風景」より

## 「関西大学うめきたラボラトリ」が参画する「うめきた」ナレッジキャピタルがオープン



▲左から2つ目が「関西大学うめきたラボラトリ」が開設されたグランフロント大阪のタワーC(写真提供：一般財団法人ナレッジキャピタル)

4月26日に街開きを迎えたJR大阪駅北側の再開発地区、うめきた・グランフロント大阪。その中核施設であるナレッジキャピタルに産学官連携における研究の拠点「関西大学うめきたラボラトリ」を開設した。

関西大学うめきたラボラトリが開設されたのは、「感性」と「技術」の融合により、「新たな価値」を創出する総合施設であるナレッジキャピタルの中でも、産学官連携プロジェクトに参画する企業や研究機関、大学など、人材・知財・情報の集積拠点となるオフィススペース「ナレッジオフィス」。

本学はうめきたに研究拠点を置くことにより、総合大学としての多様で豊富なコンテンツと高度な研究シーズを活用し、地元大阪・関西に根差した研究活動の推進、多様な社会ニーズに対する異分野を融合したイノベーションの創出を目指していく。

## 高槻ミュージックキャンパスがコージェネ大賞を受賞

一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センターが開催する平成24年度コージェネ大賞で、本学の「『社会貢献型都市キャンパス』における災害対応コージェネレーションシステム～



▲高槻ミュージックキャンパス

関西大学高槻ミュージックキャンパスにおける地域防災拠点としての取り組み～」が、民生用部門で理事長賞を受賞した。

コージェネ大賞は、新規・先導性、新規技術、省エネルギー性などに優れたコージェネレーションシステム(熱源より電力と熱を生産し供給するシステム)を表彰するもの。

高槻ミュージックキャンパスは「社会貢献型都市キャンパス」を目指し、多くの施設を地域開放するとともに災害時には防災拠点となるよう避難所機能を備えることを計画し、関西の大学施設として初めて非常用発電機を兼用するコージェネレーションシステムを採用している。今回の受賞は、省エネ性・環境貢献性だけでなく、防災拠点として役立つシステムであることが高く評価された。